

## 「イエス様の居場所」

ルカによる福音書 24：1-12  
イザヤ書 43：19

2023年4月9日  
野村 友美 師

### <復活を祝う朝>

イースターおめでとうございます。

主イエス・キリストの復活を喜び祝うこの日を、こうして呉教会の皆さんと迎えることが許された恵みに感謝いたします。今日私たちがここで礼拝しているのは、死からよみがえられた救い主です。

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」

(ヨハネ 11:25)

そう宣言なさって、その言葉どおりによみがえられた主イエス・キリストが私たちの真ただ中におられます。死から命へ、絶望から希望へ、罪の暗闇から神様の愛へ、私たちすべての人を導き出すために十字架で死なれて復活された神様のひとり子。イエス様は父なる神様と一緒に天におられ、また聖霊によって私たちと一緒にこの地上で生きて働いておられるお方です。

「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」(ヨハネ 14:6)

そうイエス様はご自分のことを紹介なさいました。神様の御国と私たちをつなぐた

だ一本の道、イエス様を通して私たちは不安と絶望の先に、神様の愛の光を見ることが出来ます。死と苦しみの恐怖の先に、神の国の平和と永遠の命の希望を見ることが出来ます。神様からの救いは、私たちの予想も常識も価値観も超えて引き起こされる。そのことを、イエス様の死と復活の出来事が証言しているのです。

### <空っぽの墓で>

ルカの福音書が描く復活の朝には、イエス様の姿はどこにも見当たりません。空っぽのお墓があって、そこに2人の天使がいて、イエス様が死からよみがえられたことを女性たちに宣言する、ただそれだけです。

イエス様はいったいどこにおられるのでしょうか？新しい週の初めの日、イエス様の死から三日目の朝、安息日が終わって夜が明けるのを待って、女性たちがイエス様の墓へやってきました。ガリラヤからエルサレムまでずっとイエス様について来た彼女たちは、弟子として最後までイエス様に仕え通すつもりだったんでしょう。イエス様が死なれた金曜日、太陽が沈んで安息日が始まる前に、とイエス様の遺体が丁寧に、でも慌ただしく葬られる様子をこの女性たちはじっと確認していました。そしてイエス様の埋葬を完璧に仕上げるために、遺体に塗る香料と香油を準備して、明るくなるのを待って、彼女たちはお墓へやって来たんです。なのにいざ到着してみたら、お墓の入り口を塞いでいたはずの大きな石が横に転がされて、肝心のイエス様の姿はどこ

にも見当たりません。いったいイエス様はどこにおられるんだろう？途方に暮れる女性たちのそばに、輝く衣を着た2人の人が現れたと福音書は描いています。明らかに普通の人じゃない、どうやら天使らしいその人たちを見て、女性たちは恐ろしくなって、地面にひれ伏しました。お墓にあるはずのイエス様の遺体はなくなってるし、ここで天使たちに会うなんて思いもしなかったし、あり得ないことばかりでもう何が何だかわからない！そんな怖さと不安でいっぱいになっている彼女たちに、天使はさらに予想外のことを話しかけました。なぜ、生きておられる方を死者の中に探すのか。あの方はここにはおられない、復活なさったのだ。

天使が言っていることが本当なら、確かに死んだ人を葬るお墓という場所は死から復活されたイエス様にはふさわしくない居場所です。ただ、不思議なことに天使はここで「なぜ死者の場所でイエス様を探すのか」じゃなくて「なぜ死者の中にイエス様を探すのか」と言っています。なぜあなたたちは、死んでいる者たちと一緒にいるイエス様を探すんだ？復活されたイエス様は、誰と一緒にいると思う？そう言って、天使はこの女性たちに「イエス様の居場所はどこだと思うか」と問いかけているんです。

その答えは、すでに彼女たちが聞いていたはずのイエス様の言葉にありました。

「人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている。」 思い出しなさい、まだガ

リラヤにおられた頃、イエス様はそう言ってたじゃないか、と 天使は彼女たちに教えます。わたしは罪人として十字架につけられて、でも死んで三日目には復活するよ、と他にもないご自分の弟子たち、あなたたちに向けてイエス様は伝えておられたじゃないか。そう天使たちから言われて、女性たちもその言葉を聞いたことを思い出しました。確かにイエス様は、私たちに伝えてくださっていた。私たちはイエス様の約束を聞かされていた、と彼女たちは思い出したんです。復活されたイエス様の居場所は死んだ者たちの間じゃない。イエス様の言葉を聞いたあなたたちの間、そこがイエス様の居場所だ。天使たちの問いかけは、この答えを差しています。イエス様の言葉を聞いて、イエス様を信じて従う者たちの間。そこが復活されたイエス様の居場所なんだ、と天使はこの女性たちに教えているんです。

そしてもう一つ。イエス様は私たち人間の予想を超えた出来事の真ただ中におられる、ということもまた今日の場面が私たちに教えているように思います。わたしは罪人として十字架につけられて、死んで、三日後に復活する。このイエス様の予告を聞いた時には、女性たちも他の弟子たちもみんなイエス様が何を言っておられるのか理解できませんでした。神様からの救い主として来られたイエス様が、よりによって犯罪者を死刑にするための十字架につけられて死んでしまうなんて、あり得ない。死んだ人が三日も経ってから生き返るなんてもっとあり得ない。それがごく当たり前の

受け止め方だったはずです。あり得ない、理解できない、受け入れられない。そういう言葉だったから、確かにイエス様から聞いていたはずだったのに、記憶の隅っこに放り込んで忘れてしまっていたんじゃないでしょうか。でも空っぽのお墓を見て、「イエス様は復活なされた」と天使たちから聞かされて、イエス様の言葉を思い出し、彼女たちはハッとしました。聞いた時には「あり得ない！」と思って、理解できなくて受け入れられなかったイエス様の言葉が、現実の出来事として目の前で起こっているんです。マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の女性たち。彼女たちがどういう気持ちになったのかは、福音書は何も語っていません。「ああ、そうだったのか」って納得したり、嬉しかったり、ちょっと怖かったり、きっといろんな思いを味わいながら、彼女たちは仲間の弟子たちみんなに知らせに行きました。イエス様が復活された！予想外のことが起きた！あり得ないと思っていたイエス様の言葉が、現実になった！この明るい驚きを、誰かに伝えずにはいられなかったんです。でも、死んだ人が三日も経ってから復活したなんて、予想外にも程がありません。とてもあり得なさすぎて、他人から聞いただけですぐ信じるのはなかなか難しいことでしょう。女性たちの驚きを聞かされた、他の弟子たちもそうでした。イエス様を裏切ったユダが抜けて11人になった使徒たちも同じです。みんな彼女たちの驚きを「たわ言」だとしか思えませんでした。

ただ、イエス様の一番弟子で使徒たちのリーダー、でも肝心な時に「イエス様なんか知らない」と否定して逃げてしまったあのペトロは、女性たちの話を聞くと立ち上がってお墓へ走って行きました。この時のペトロはきっと、自分の弱さと情けなさを思い知ってペしゃんこにへこんでいたんだろうと思います。絶対にイエス様から離れない！イエス様を裏切るなんてあり得ない！って自信满满だったのに、いざとなったら自分はびっくりするほどあてにならなかった。そんな苦い経験を味わったからこそ、ペトロは「あり得ない！」をいったん脇に置いて、とにかく自分の目で確かめるためにお墓へ走って行けたんでしょう。そして、聞いた通りの空っぽのお墓と、イエス様の遺体を包んでいたはずの亜麻布を見てやっぱり驚きながら帰ってきました。

#### <イエス様の居場所>

イエス様の言葉を聞いて、イエス様を信じて従う者たちの間に、イエス様はおられる。私たちの予想を超える神様の出来事の真ただ中に、イエス様はおられる。

今日の聖書の場面はこの不思議で明るい驚きを、イエス様本人の姿は見せないままで、イエス様が間におられる人たちを通して伝えていきます。この時には「あり得ない！」と思って信じられなかった弟子たちも、これからそれぞれのタイミングで、自分たちの間におられるイエス様と出会うこととなります。

復活されたイエス様の居場所。神様から

の愛と救いは、私たちの「あり得ない！」を飛び越えて神様が起こされる出来事の真ただ中にあるんです。

それは誰が見ても奇跡としか言えない、なんていう特別なこととは限らないでしょう。例えば、一冊の聖書との出会いかもしれません。先にイエス様と出会った誰かとの関わりかもしれません。何かのきっかけでふっと耳に入ってきた言葉とか、ささやかな出来事かもしれません。

私が前任の福岡教会にいた時に、こんなことがありました。福岡教会では毎年子どもクリスマス会の案内用にチラシを作って、それを近所の小学校の前で子どもたちに配っていました。ある時そのチラシがどこからともなく風で飛んできて、1人の子どもの足に張り付いたんだそうです。きっと受け取った子どもの誰かがポイツと捨ててしまったのか、うっかり手から離してしまったんでしょうね。自分の足に飛びついてきたチラシを見て、その子は教会の子どもクリスマス会にやって来てくれました。それだけじゃなくて、その後も時々教会に遊びに来てくれるようになったんです。

「足に張り付いたあのチラシを見て、神様から招かれたと思った。」そう言って照れくさそうに笑っていた小学生が、いつの間にか私よりも背丈が伸びて、先月は福岡教会の皆さんと一緒に私を送り出してくれました。こんなささやかなことから始まるなんて、あり得ない。こんな私が神様を信じるなんて、あり得ない。こんなことが起こるなんて、あり得ない。一人一人のいろん

な「あり得ない」を飛び越えて、イエス様は神様から私たちへの愛と救いを現実の出来事として、私たちの間で引き起こされるお方です。

不安と絶望の暗闇の先に、予想を超えた神様の愛の光を見せてくださる。死と苦しみの恐怖の先に、予想を超えた神の国の平和と永遠の命の希望を見せてくださる。そのことを神様は、旧約聖書の預言者イザヤを通して、こんな言葉で約束しておられます。

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。」

(イザヤ 43 : 19)

荒れ野に道を敷いて、砂漠に大河を流れさせる、そんな予想外の恵みを神様はイエス様によって実現なさいました。イエス様の復活を喜び祝うこのイースターの朝、私たちは、神様が引き起こされる新しい出来事に期待していようではありませんか。

一人一人の「あり得ない！」を超えて神様が見せてくださる愛に、神の国の平和に、永遠の命の希望に、ご一緒に驚かされていきましょう。お祈りいたします。